

カンナヒロコ プロフィール

ヒロコは暖かくて官能的なボイスを持っている。また彼女のフレーズは、申し分なく洗練されている。彼女の歌を聞く人は、この日本生まれのシンガーの本格的なジャズボーカルを堪能するだろう。彼女は、サラ・ヴォーン、エラ・フィッツジェラルド、カーメン・マクレイ、ビリー・ホリデイ、ビル・エヴァンス、ジョン・コルトレーン、マイルス・デイビスなどから深い影響を受けた。

ヒロコは音楽一家に生まれ育った。父はバイオリンとハーモニカを休みの日にたしなんだ。レパートリーはもっぱら歌謡曲だった。母と姉二人は三味線を弾く。弟は幼少の頃からギターを弾き、現在は主にビートルズナンバーを歌っている。

彼女が5歳のとき、初めてピアノとオルガンを習いはじめた。いちばん上の姉の影響で、アメリカやヨーロッパの音楽を聴きはじめてしたのは小学生のときだった。その頃、姉が聴いていたドーナツ盤の「ハーレム・ノクターン」は、彼女にとって初めて聴いたジャズだった。子供ごろにも不思議な音楽、ちょっと危ない音楽という印象が強く残った。両親が経営していた小売店で有線が流れていたのもこの頃だ。ママス・アンド・パパス、ディオンヌ・ワーウィック、シルヴィー・バルタンが大好きだった。

音楽はつねに、彼女にとって大切なものだった。15歳のときには、ブラジル音楽に出会い、深い感動を受けている。当時友達から借りた「ゲッツ/ジルベルト」、「セルジオ・メンデス&ブラジル'66」のレコードのトリコになるという、ずいぶんオマセな高校生だった。徐々にジャズを聴き初めたのもこの頃だ。

1981年に渡米。ニューヨークに移り住む。この時まではジャズを聴く人間だったが、それ以後はジャズを歌う人間になるべく、「Sounds Of Joy」, 「J

azzmobile」、「Barry Harris ワークショップ」でジャズ修行を始める。

ジャズ・ボーカル発声法、ジャズ理論、インプロビゼーション、パフォーマンス・テクニック、ジャズピアノを学んだ。また個人的に、Norman Simmons、Inez Jackson、Andrea Greenらに師事している。そして3年後の1984年、プロのジャズ・ボーカリストとして活動を始め、ニューヨークと日本のジャズクラブ、レストラン、ホテルラウンジに多く出演している。

1995年より定期的にジャパンツアーを行なっている。

『主な出演場所』

東京：「東京倶楽部」、「Tonalite」、「Klavier」、「ノーバード」、「上野アリエス」、「All Of Me Club」

横浜：「Bar Bar Bar」

名古屋：「Jazz Inn Lovely」、「Johnny」、「スターアイズ」

大阪：「アズール」

姫路：「ライラ」

岡山：「ジョーダン」、「もじゃぢ」、「壺番館」

広島：「Bird」、「ピアノバー下本」、「アップルジャム」、「カミン」

ニューヨークではこれまでに、「Cho Cho San」、「Tomi Jazz」、「105 Harbor」、「The Jazz Spot」、「Shutter's Cafe」、「Mannahatta」、「Kavehaz」、「Carpos Cafe」、「JRG Fashion Cafe」などに出演。また、「Hiroko Kanna Aquarius Concert」や「Discovery Co

ncert」を「The Jazz Center Of NY」で、今はなき名クラブ「Sweetwaters」でもコンサートを行っている。

主な共演者は、Houston Person, Rufus Reid, Akira Tana, Harold Marben, Norman Simmons, Frank Owens, Richard Wyands, Earl May, Lyle Atkinson、Russ Morrow, 嶋津健一、加藤真一、ノリ落合、Jun Saitoら。